

知的資産経営報告書

2023年1月20日

あけぼの



1	会社概要	3
2	経営者ごあいさつ	4
3	後継者ごあいさつ	5
4	経営理念	6
5	沿革	7
6	旅館のご紹介	8 - 10
7	保有する知的資産	11 - 17
8	「旅館あけぼの」の強み	18
9	「現在」価値提供ストーリー	19
10	課題と取り組み	20 - 25
11	「将来」価値提供ストーリー	26



ひとときの心の贅沢

「やさしい時間」がここにあります。
町の中心地でありながら、この静け
さとこの風情は、不思議なくらい驚
きです。

あけぼの

会社名	有限会社旅館あけぼの
所在地	佐賀県佐賀市中の小路3-10
代表者	音成 洋子
後継者	音成 亜美
電話	0952-24-8181
社員数	17名
客室数	和室11室(うち宿泊用7室) / 洋室20室
宿泊数	60名
駐車場	30台収容 / 大型バス可
URL	https://akebono-saga.jp/



代表者ごあいさつ

旅館あけぼのは2023年をもって創業134年を迎えます。明治22年に白山町長崎街道筋で創業（現商工ビル）。大正9年に現在地に移転し、昭和24年には「有限会社曙旅館」として法人化、昭和58年に「旅館あけぼの」に改称しました。初代は東多久出身の音成ツネ。女性起業家の先駆者です。

明治43年に画家の青木繁が当館に約半年滞在し、初の画展を開き、宿代替わりに絵を置いていったエピソードは有名であり、天才画家青木繁ゆかりの宿として、その関わりを大切にしてきました。

二代、三代と歴史を重ね四代目を継いだ主人は『これからの旅館はどうあるべきか』『どうしたら佐賀の街を活性化できるか』と悩み考え、出した結論は「旅館とは日本文化を継承してゆくものだ」ということでした。

そこで、寄席をはじめ様々な企画、イベントを開催し、時代に対応した経営を続けて来ました。

しかしながら、近年はインターネットが急速に普及し、今までの社会の基盤が大きく変化し、更にはコロナで世の中は一変、悩みながらの経営が続いていました。

そんな中、昨年主人が急逝し、急遽長女が事業を引き継いでくれる事になり、重責をかけることとなりましたが、嬉しく思っています。

たくさんの課題を抱えながらの事業継承ですが、今回、この「見える化プロジェクト」で財務的な数値ではわかりにくい知的資産や強みなど分析していただいたことを感謝申し上げます。また、私も次期経営者のサポートをし、末代まで旅館あけぼのが発展してゆくことを望んでおります。

音成洋子

2022年3月末に当時四代目社長であった父が急逝しました。長女である私が事業承継のために6月に入館し、約半年が経ったところです。

高校卒業と同時に上京し、27年間佐賀を離れ、全くの異業種でキャリアを積んできたので、急に旅館を継ぐといっても、右も左もわからない状態でした。一方で、コロナで時代は大きく変化し、当館に求められるビジネスモデルも進化が必要でした。父も生前には強い危機感を感じていました。

ただ、私にとっての最大の思考の壁だったのは、長年にわたり両親から聞いていた沢山の「当館が出来ていないこと、劣っていること」といった課題の山でした。これらの課題全てを一気には解決できない中で、また、そもそも解決できないことも多い中で、見える化プロジェクトは、何が私たち「旅館あけぼの」にとっての差別化ポイントなのか、何を誇れるのか、何を強化していくべきか、といったことを考える機会を与えてくれ、サポートしてくれました。お陰様で、半年という短期間の中で、私はこの新しい環境にオンボーディングでき、将来に向けての短期・中長期での事業の方向性が見えてきています。まだまだ学ぶべきこと、経験していくべきことだらけの現在ですが、今後も佐賀の皆様のお力添えをいただきながら、そして佐賀と共に未永く発展していきたいと考えております。

音成亜美

旅館あけぼのは、佐賀を代表する街なか旅館、そして
“日本文化の継承者”として、お客様が笑顔になれる
おもてなしと体験、新たな価値を提供することで、
佐賀の発展と人々の心の豊かさの向上に貢献します。

1889年	佐賀県白山町長崎街道にて創業。初代は音成ツネ。	初代・2代目 創業期・発展期 文化人たちとの関係資産を築く
1910年	4月に天才画家・青木繁の画会が開催され大盛況。その後青木は9月かけて滞在。	
1920年	八幡小路に移転（現在は当館の北側駐車場）。	
1933年	現在のフロント棟を建設。	
1949年	有限会社化。代表取締役は音成竹次が就任（2代目）。戦前より、歴代横綱の玉錦、千代の山、鏡里、初代若乃花、大鵬、名優長谷川一夫などの著名人が数多く宿泊。	3代目 停滞期 企業活動よりも文化活動に偏る
1971年	代表取締役に音成三男が就任（3代目）。	
1976年	佐賀国体を機に、庭と池のある総和風建築から全面リニューアル。	
1989年	創業100年を機に、フロント・玄関などを建築家緒方四郎氏による和風モダン様式にリニューアル。人間国宝小柳小さん師匠、桂三木助師匠などを招いて創業100年記念寄席を開催。	4代目 再興期 地元経済界、文化界との交流の場として賑わう
1996年	代表取締役に音成日佐男が就任（4代目）。	
2006年	建築家緒方四郎氏により、檜風呂や1階トイレなどを新築リニューアル。	



和風モダンな佇まい

和と洋の融合、歴史を感じる数々の調度品により、つい写真を撮りたくなるレトロな雰囲気。

まちなか旅館

佐賀の中心地に立地しており、観光の拠点や地域の憩いの場として最適な旅館となっています。

静けさと風情

まちなかにありながらも、水打った石畳に木漏れ日が差し込み、木々の緑を感じることができます。



地産地消

佐賀牛や有明海の魚介類、従業員の作る梅干しなど、佐賀の食材にこだわっています。

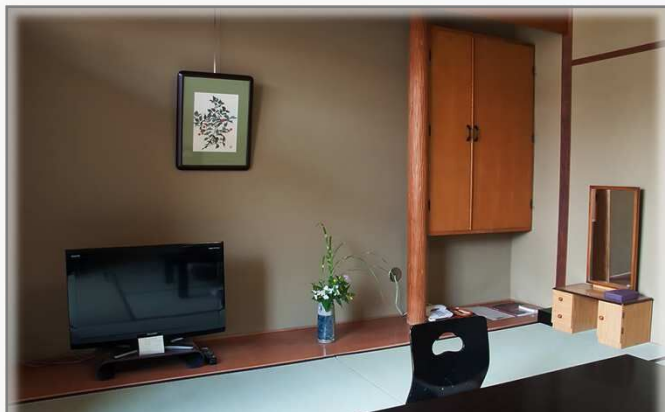
こだわりの佐賀の器

県内の陶芸作家によるこだわりの器に盛りつけることで、視覚でも楽しめる料理を提供しています。



評判の高い朝食

ビジネスホテルとは一線を画す朝食を提供しています。評判が高く、朝食目的でリピーターが増えています。



和室

畳と障子、調度品による趣とあたたかさを感じることができます。お子様連れにも人気となっています。



郷土料理

佐賀の食材と器にこだわったコース料理となっています。お米は背振山の湧き水で炊いています。



宴会場

お祝い事やご法事、歓送迎会や忘新年会に適しています。座敷や椅子など選択でき、最大120名まで収容できます。

「旅館あけぼの」の長い歴史の中で育まれてきた

「しつらいの空間」「文化活動」「地域交流」が最も重要な知的資産である。



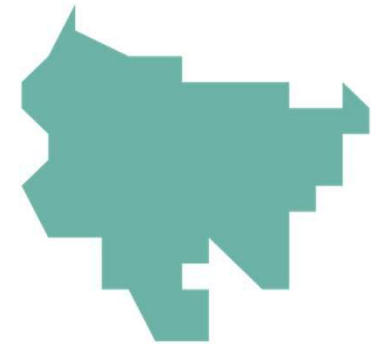
室 礼

旅館の雰囲気とあいまって
数々の調度品を楽しむことができる。



文 化

著名画家や人間国宝との交流。
調度品や芸術作品を楽しめる
空間。



地 域

長年にわたる地域との交流
による信頼関係や親しみ。
佐賀の食材や器の積極的な
利用。

品格あるなかでの親しみ



創業134年

お客様や地域との長年の交流によって、
老舗旅館ならではの、深く語れる歴史が数多ある。

初代 音成ツネ

明治22年、佐賀市白山町の長崎街道筋で開業。
同郷の衆議院議員・西栄太郎の後援や画家・青木繁の画会によって繁盛しました。

しつらいの空間

館内のいたるところに「なにげなく」置いてある数々の調度品や芸術作品。

当館では「保存」するだけでなく、現代においても活用しています。



女将の目利きにより、それぞれの部屋にあった調度品が飾られている。
また、女将による作品の解説も魅力の1つとなっている。



文化人との交流

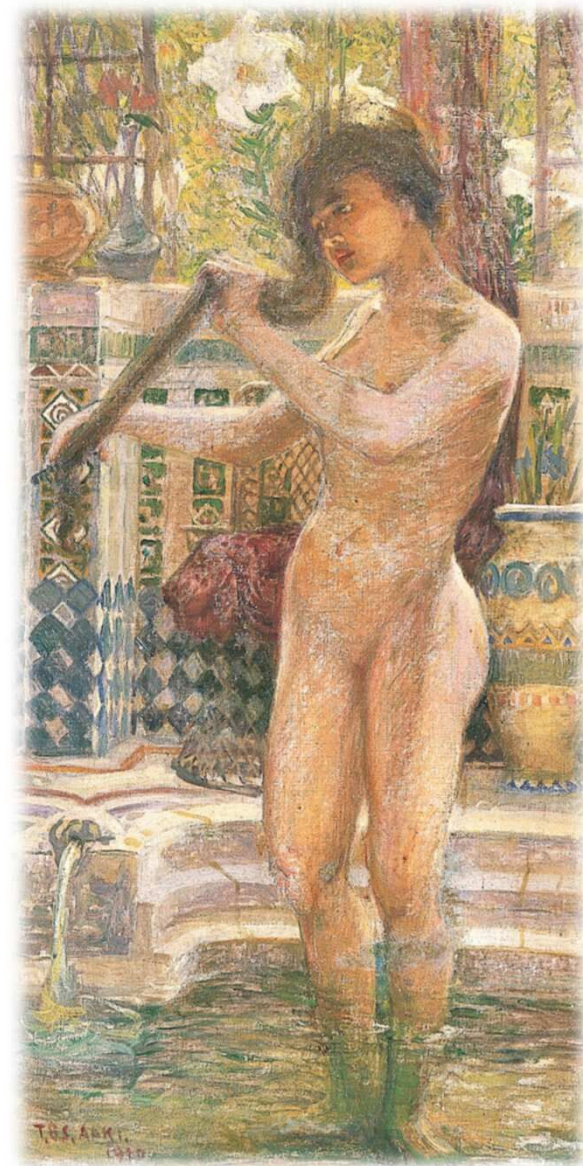
創業以来、数多くの文化人が当旅館を訪れ、滞在を重ねるなかで交流を深めてきました。現在においても、「青木繁を語りつくす会」が開かれるなど、歴史を大切にする催しを行っております。



青木 繁（1882年～1911年）

明治期の日本絵画のロマン主義傾向を代表する作家。

1910年に当旅館で画会が開かれ大成功を収めました。その後、半年の間当旅館に滞在し、宿代として名作「温泉」を置いていきました。



伝統の文化

お雛まつりやお食い初めといった日本の
伝統行事、思い出を語らう御法事の場。
それらにおいて「旅館あけぼの」ならではの
おもてなしで、お手伝いをしています。



地域との関わり

旅館あけぼのでは地域活性化として様々な活動を実施しています。

三代目「音成三男」は有明海の写真撮影をライフワークとし、有明海の保護や自然を大切にすることを訴え続けました。

四代目「音成日佐男」は、佐賀ユーマア協会を立ち上げ、佐賀を笑いで盛り上げる活動に従事。また、市内に900体近くある「えびす像」での町おこしにも従事。他にも多くの定例会を主催し、あけぼのを地域の社交場に作り上げました。



1

老舗ならではの建造物や館内の雰囲気・おもてなし

- 館内のしつらいやモノを見る力
- 親しみのあるサービス・おもてなし
- 何気なく置かれている県内の調度品

2

地元の方々にも愛される場

- 先代の地域とのつながり
- 寄席などの主催による地元への文化発信
- 会食・ご接待の場として活用されている

3

おいしいお料理

- 価格と内容のバランスのよさ、まちがいのないクオリティ
- すてきな器使い
- 有明海料理などの地域特有の食材

品格ある中での親しみ

理念・ミッション

歴史と文化を伝えていく

方針

喜んでもらえるサービスの提供

取り組み・活動

イベント運営の継続(あけぼの寄席、定例会等)

仕組み・仕掛け

取引先との長い付き合い

GOODなサービス・製品

街なかにあること

佐賀にこだわったおいしい料理と器

集まれる(宴会・イベント)

のんびりできる時間・空間

女将による顧客への説明(調度品や器等)

お客様へお届けしている価値

「休暇」を楽しむ

「佐賀の食」を楽しむ

「街」を楽しむ



ひとときの心の贅沢

お客様から頂いている価値

あけぼのファン

ステイタス・評判

良い口コミ

冠婚葬祭・接待・宴会・仕出し
それぞれ対応可能

これまでの課題

1

調度品などを活用しきれてない

数々の調度品などを展示しているが、ただ置いてあるため「なんとなくいい雰囲気」とそれだけで終わってしまっている。

2

佐賀への観光客が少ない

佐賀県自体に観光客が少なく、また、温泉地に流れる観光客が多いため、温泉のない佐賀市中心部はより一層少なくなっている現状である。



これからの取り組み

美術館のような旅館

佐賀の魅力度向上

美術館のような旅館

調度品や芸術作品の名前や歴史、作られた背景、込められた思いなどを知ることができ、より一層文化を感じることができる。

これまで



これから



美術館のような旅館づくりのために・・・

見える化



館内のいたるところに配置してある調度品や芸術品のそばに、作品の説明書きや作者の写真などを添える。

スキルアップ



学びの機会を設けることで、だれもが女将のように、調度品を見る力、旅館の歴史などの知識の向上を行う。

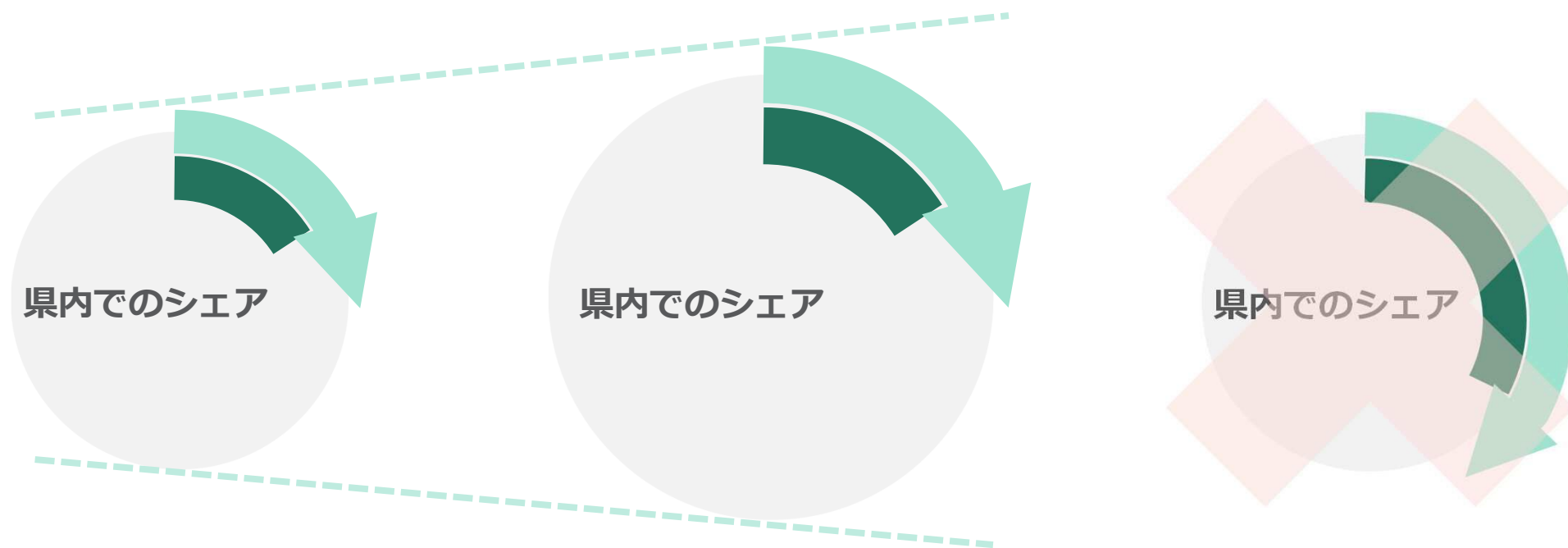
フィードバック



お客様の喜びの声を共有することによって、さらなるサービス・おもてなしの向上を図る。それによって良い好循環を構築する。

「旅館あけぼの」の市場拡大

パイの奪い合いをするのではなく、佐賀への来訪増を増やし、競合と共存しつつもシェアを伸ばす。



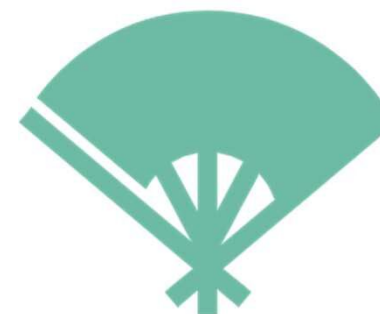
佐賀の魅力度向上ために・・・

体験型プラン



佐賀の見どころを感じられるスポットやイベントを体験できる宿泊プランを作り「佐賀ファン」を増やしていく。

地域イベント



観光客だけでなく地域住民への佐賀PRとして、これまで以上に地域や自治体と連携して佐賀を盛り上げていく。

品格ある中での親しみ

理念・ミッション

歴史と文化を伝えていく

佐賀の魅力を伝えていく

方針

喜んでもらえるサービスの提供

計画的なスキルアップ

取り組み・活動

イベント運営の継続(あけぼの寄席、定例会等)

佐賀ならではの体験付きプラン

作品の見える化

仕組み・仕掛け

取引先との長い付き合い

定期的な社員研修

良い評価の共有

GOODなサービス・製品

街なかにあること

佐賀にこだわったおいしい料理と器

集まれる(宴会・イベント)

のんびりできる時間・空間

全員による顧客への説明(調度品や器等)

お客様へお届けしている価値

「休暇」を楽しめる

「佐賀の食」を楽しめる

「街」を楽しめる

「作品」を楽しめる

ひとときの心の贅沢

お客様から頂いている価値

あけぼのファン

佐賀ファン

ステイタス・評判

良い口コミ

冠婚葬祭・接待・宴会・仕出し
それぞれ対応可能

フィードバック

旅館あけぼの

佐賀商工会議所

佐賀銀行

佐賀県信用保証協会

佐賀県中小企業診断協会

【問い合わせ先】

旅館あけぼの 音成亜美
電話番号 0952-24-8181



2023年1月10日 「旅館あけぼの」にて

あけぼの